

三年に仰付られ、朝鮮種人參の製法御用を勤む、綿羊を齎し來りて、和羅紗を製せり、今吹上之御庭にも織殿有て、出役等多し、

〔有徳院殿御實紀附録^{十五}〕良喜^林も、少年より藥種の事うけたまはりしかば、よりく御前に召

て、佐渡の石鐘乳、日光の人參の効驗を試しめ玉ひ、また花^{島田}安の藥苑、そのほか京^都の藥園紀州などにて産せし藥種の事をも、つかさどらしめ、^略下

〔烈公行實〕天保十四年癸卯、年四十四歲^略中 是歲弘道館中醫學館落成、公親作贊天堂記、言宜明

大己貴少彥名二神之道、中國藥物自足、不必須海外諸物產之意、設藥園、養牛場於館側、凡所製奇藥如酥酪、紫雪、紫金錠、千金錠等類甚多、

〔日本教育史資料^六 舊山口藩〕一小病院、分析局、藥草園、ハ、醫校中ニハ不虧事ニ御座候、尤小病院ト申

候テモ、急ニ御詮議モ難被仰付御事ト奉存候、分析局藥草學ハ、開物成務ノ一大端ニシテ、後來御

國益ニモ相成可申候、殊ニ外夷拒絶ノ時節柄、追々藥不如意ニ至リ候事ト奉存候、全體以我物足

我用ノ義ハ、天理ノ當然ニ御座候、假令ヒ藥物渡リ來不申テモ、分析學相開候事ニ候得バ、製煉ノ

諸術ニ熟達ノ上ハ、新藥モ出來可仕候、好生堂中ニ一局御設被仰付、此術巧者ノ輩可申立候間、御

撰舉一途引受可被仰付候、諸生モ分析學研究ノ節、現術相試可申候、是迄百草園中ニ於テハ、分析

場御小納戸管轄ニシテ、局所丈ケ好生堂へ御移轉引請被仰付候様ニ奉存候、左候得バ、諸生中業

間ニ、右之局ニ罷出手傳、自然ニ熟達可仕候、藥草園ハ、是迄之處ニ被差置、同様ニ被仰付度、御小納

戸エモ其段可申出候間、政府ヨリ御申入可被下候、

一諸藥店之義ハ、藥種一事ニ就テハ、好生堂管轄ニ被仰付度、左候得バ、姦惡眩誣之所業モ少ク、藥

品モ自然精撰可致候、第一ニハ於西洋諸國、軍事出張之節ハ、藥局之者、醫師ニ付添、藥物繰出シヨ

リ、百爾之事務ニ至ル迄、從事致居候、平日管轄被仰付置候ハ、不虞之節ハ、軍用之藥物即時ニ相